

やまがた木造設計マイスター養成講座

課題：農産物直売所が併設されたやまがたの魅力発信施設

『花笠が迎える賑わいのある魅力発信施設』

株式会社アックスクリエート
石井 裕樹

有限会社 石山建築研究所
神藤 径英

株式会社 TOKU 設計
木村 徳之

【設計コンセプト】

この地は、400年以上続く歴史あるイベントである「薬師祭植木市」が開催される場所です。

日本三大植木市の一つで、山形市では「花笠まつり」「日本一の芋煮会フェスティバル」と並び賑わいが期待できる一大イベントの一つです。

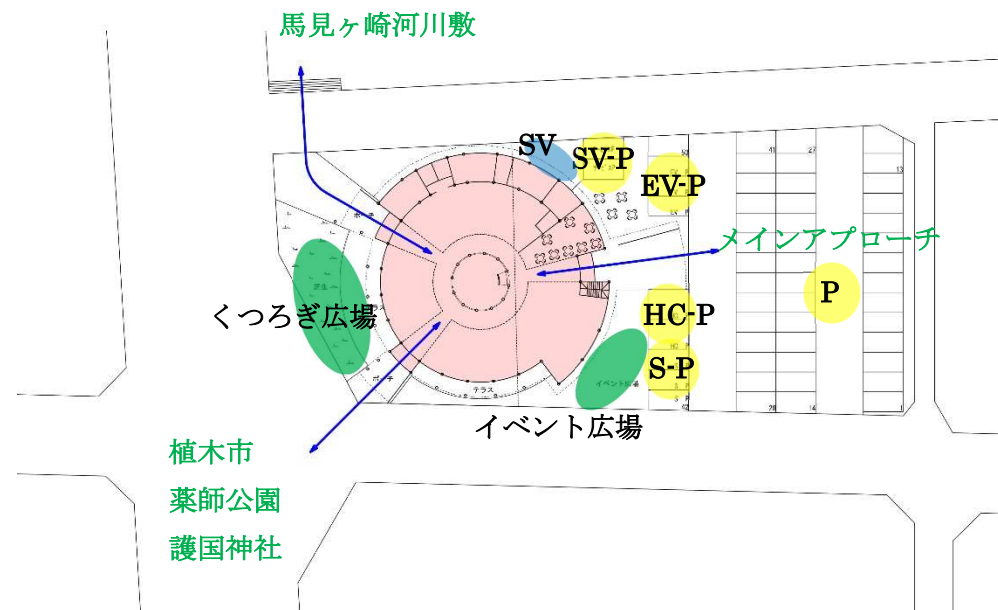
そこに「花笠」を造る計画である。

円錐形（実際の花笠は“むくり”）は、構造的にバランスがとれ安定的な建築を維持できる事、また内部から見たときに放射線状に架けられたトラスが木の美しさを演出してくれる事を期待したものです。



【配置計画】

～賑わいを呼ぶ三方アクセス～



- ・植木市（薬師公園）方面、馬見ヶ崎河川敷、駐車エリアの三方向からアクセスさせ利便性を向上させます。
- ・施設エリアと駐車エリアを明確に分離します。
- ・芝生を貼ったくつろぎ広場を設けます。
- ・マルシェ等イベントが行えるイベント広場を設けます。
- ・荷揚げや仕入れ等のサービスエリアは客動線と重複しないように東側に設けます。

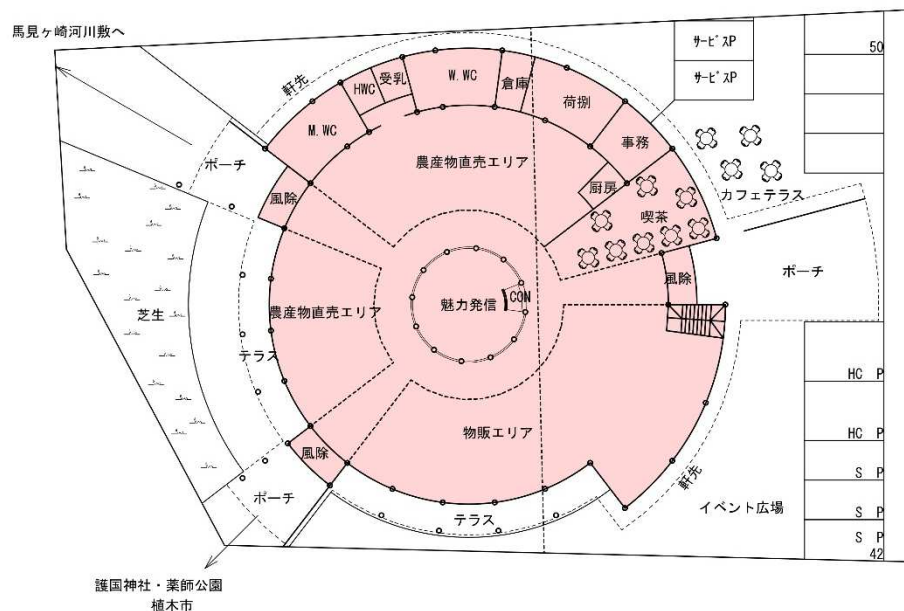
【平面計画】 ～魅力発信コーナー核と位置づけ中心へ～

施設概要

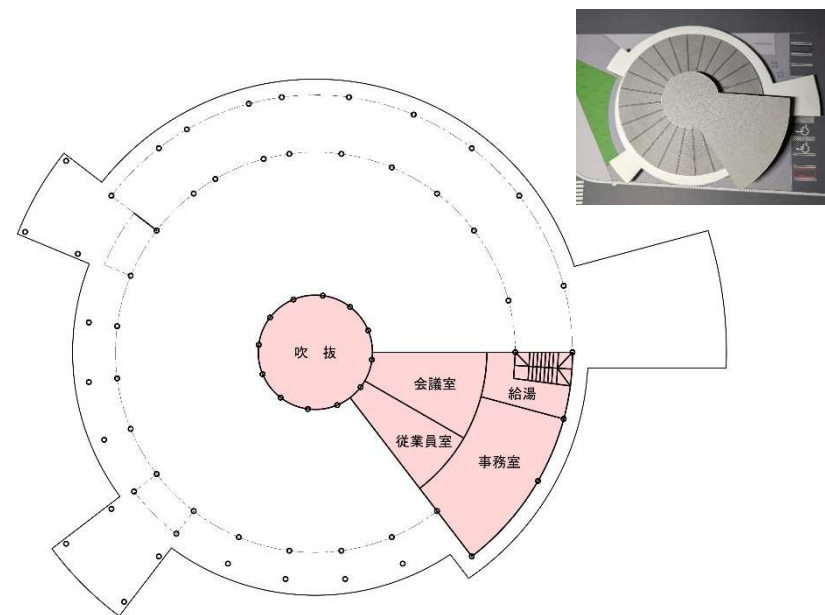
1階床面積	680.35㎡
2階床面積	114.24㎡
延べ床面積	794.59㎡
構造	木造 イ準耐火建築

主要外部仕上表

屋根	ガルバリウム鋼板段葺き
軒天	杉板本貫加工貼(山形県産材)
外壁	モルタル金縷仕上
	窯業系サイディング t=16 下地
	杉板本貫加工貼(山形県産材)



1階平面図



2階平面図

- ・地域特産や産業・観光などの山形の魅力を紹介する「魅力発信コーナー」は、円の中心に設け誰もが目に付く位置に設けます。
- ・監理部門と商業・観光部門は階でエリア分けします。
- ・販売エリアは外側に配置し外部からも様子が伺えるようにします。
- ・喫茶コーナーは正面に設け、外部との繋がりも持たせます。
- ・トイレ等水廻りを集約させ配管等のコストダウンを図ります。

- ・所々にテラスを設け内部と外部の繋がりを持たせ、入店する意欲を持たせます。

【立面計画】 ～花笠と落雪に配慮した計画～

- ・先に述べたように屋根は円錐とし花笠をイメージさせます。
- ・下屋は緩勾配の屋根として、落雪に配慮します。
- ・二階屋根も緩勾配の屋根とし落雪に配慮します。

【木を魅せる】 ～県産材をふんだんに使う～

主要室の内部仕上

販売エリア

床：フローリング/塩ビタイル/一部杉角材小端立て仕上

巾木：県産材杉 H=90

壁：県産材杉板貼/一部モルタル金罫仕上

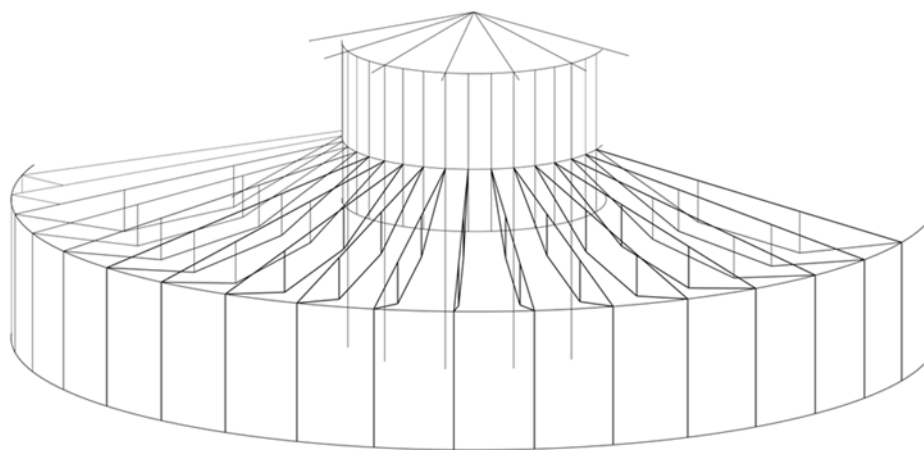
廻縁：県産材杉 H=50

天井：杉板貼(トラス表し)/一部 GB-Ft=15EP 塗装

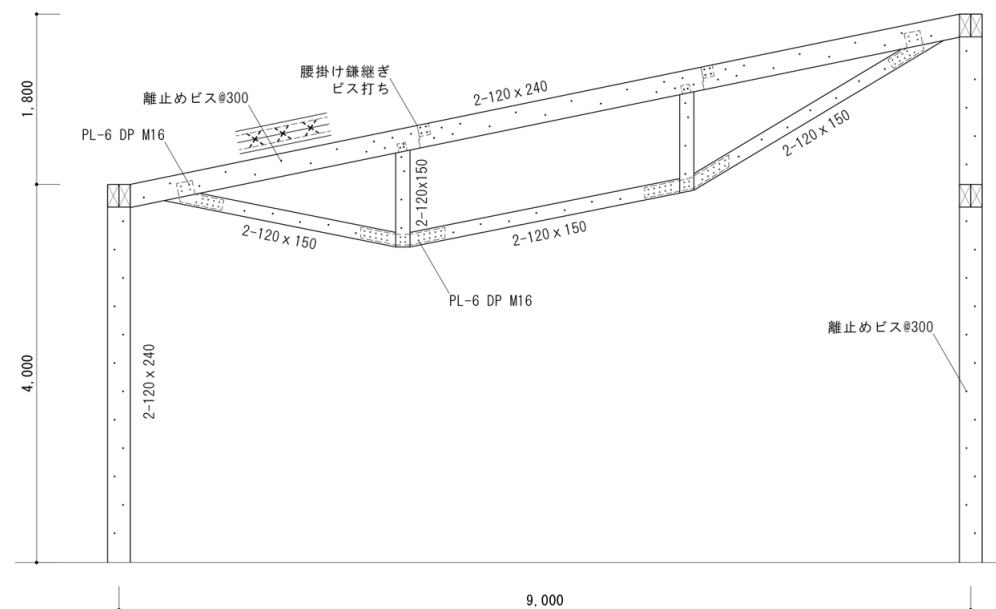
- 内部仕上げ材は県産杉材をふんだんに使用します。
- 節、トビ、割れは木材にあるべき物と理解し、本物である証明と考え、利用者のゲガが考えられるもの以外はそのまま利用します。
- 構造材は県産の一般材を採用し、無垢表しとし木の美しさを表現します。
- 地元製材加工、地元大工の手で造り上げることを目指します。
- 陳列棚等の家具も県産材を採用します。
- 外部への杉材利用は、将来のメンテナンスを考慮し、低部又は庇が深い箇所へ採用します。
- 全風除室引戸、内部建具は県産木材を採用した木製建具とします。
- 外部の主要なサッシュは県産材を使用した木製サッシュとします。



【構造計画】



- 主要構造は木造2階建て在来軸組工法とし、耐力壁をバランスよく配置します。
- 材料は山形県産スギ材を使用した架構体とします。
- イ準耐火建築物により、JAS 製材、燃えしろ45 mmの断面計画を行います。
- 産直、物販、喫茶エリアは木現しとし、張弦梁により9mスパンを支持させます。中央の魅力発信エリアから外部に放射状に横架材を均等に配置し笠の骨組みをイメージした架構体とします。
- メンバーは120×240以下を基本とし、燃えしろ設計を考慮して2丁合せとします。



【 張弦梁詳細図 】

【法令について】

【イ準耐による計画】

- 準防火地域内床面積 500 m²~1,500 m²により、準耐火建築物で計画します。
- 木造準耐火建築物の種類としては、イ準耐またはロ-1 準耐の選択肢がありますが、ロ-1 準耐の場合、本計画では、2 階外壁の自立性が保てない断面形状であり、ロ-1 準耐の趣旨にそぐわないと判断し、イ準耐で計画します。
- イ準耐では 45 分準耐と 1 時間準耐があり、それぞれの影響が大きい特徴として、下表があげられます。

準耐種類	燃え代	面積区画
45 分準耐	45mm	500 m ²
1 時間準耐	60mm	1,000 m ²

本計画では、「見せる木架構」を目指していることから、燃え代が大き過ぎると材積 UP がコスト UP に直結すること、木架構表し範囲を阻害せずに面積区画を設定できることから、45 分準耐で計画します。

【内装制限】

- 建築基準法の内装制限は規制対象外ですが、内装制限を行わない場合、床面積 700 m²超のため、消防法屋内消火栓設置を要します。（準耐により 1,400 m²未満まで設置不要ですが、その場合内装制限が必要です。）

本計画では、出来るだけ木肌を表した内装を目指すこと、平面形状より、屋内消火栓 1 ヶ所の設置で済むことから、内装制限は行わず、屋内消火栓 1 ヶ所の設置で計画します。

【小屋裏隔壁】

- 内装制限は行わない前提で、緩和措置は使わず、小屋裏隔壁を設けます。山形県では、小屋組み表しの場合で、束立て小屋のような形式の場合、表し部分であっても、桁行 12m 毎に桁上表し部分に隔壁を求めることから、小屋組みは登り梁形式（張弦梁）とし、上弦材の上端の天井裏部分のみに隔壁を設ける計画とします。

